

带状疱疹 発症の原因と治療



横浜市立市民病院
皮膚科
かほし たかし
蒲原 毅 先生

ウイルスにより発生

带状疱疹は、水痘（いわゆる「水ぼうそう」）の原因である水痘・带状疱疹ウイルスによって発症します。多くの場合、子供の頃に水痘にかかった後、このウイルスが私たちの体の中で脊髄や脳神経のうち特に三叉神経に潜んでじっとしていきす（これを「潜伏感染」といいます）。そして、体の免疫力が低下したとき、脊髄、あるいは三叉神経に潜んでいたウイルスが暴れだします（これを「ウイルスの再活性化」といいます）。

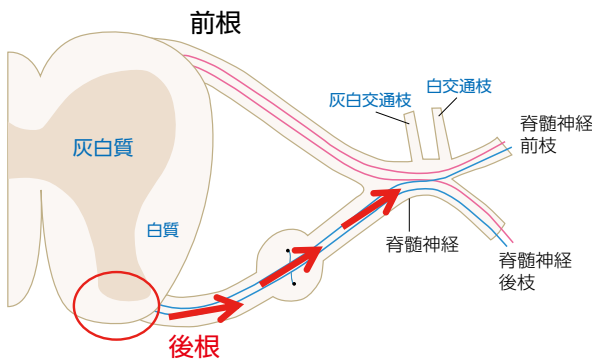
「ウイルスの再活性化」といいます。再活性化したウイルスは、脊髄や脳神経から左右いずれかの痛みなど感覚を伝える知覚神経に沿って進展します。脊髄であれば、脊髄後根に潜んでいたウイルスが再活性化して、脊髄神経の後側から末梢神経に沿ってウイルスが進展して皮膚に到達します（図1）。このとき、皮膚や抹消神経が障害されるため、体の片側で帯状に水疱（水ぶくれ）などの皮膚症状や神経痛が生じます（写真）。

免疫が下がると再発

これまでの調査で、50歳以上の方、がん、糖尿病、関節リウマ

チなど免疫が低下する病気がある方、ステロイド、免疫抑制剤や抗がん剤など免疫を低下させる薬剤を服用中の方に带状疱疹が発症し易いことがわかっています（表）。以前は、带状疱疹に一度かれば二度かかることは

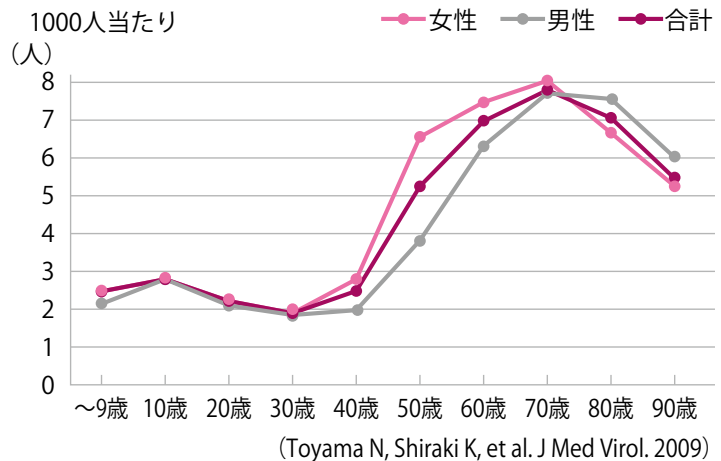
図1：水痘・带状疱疹ウイルスの進展経路



带状疱疹の皮膚症状
小さな水疱が帯状にみられている
自験例

ないといわれています。しかし、最近では带状疱疹に一度かかっても二度、三度と再発する可能性のあることが知られて

表：带状疱疹の年齢別発症率



带状疱疹は、50歳を超えると発症しやすい

るようになってきました。一生のうちには再発する頻度は、100人のうち数人くらいといわれており高いものではありません。带状疱疹にかかってから10年くらい経つと带状疱疹に対する免疫が低下して水痘・带状疱疹ウイルスの再活性化が起りやすくなっていると考えられています。とり

図2：带状疱疹の治療

重症でない場合	バラシクロビル内服 ファムシクロビル内服 アメナメビル内服
重症の場合 (入院)	アシクロビル点滴静注 ビダラビン点滴静注

わけ先に述べたような免疫が下がった状態の方は、健康な方と比べて带状疱疹が再発する危険が高いとされ注意が必要で

抗ウイルス薬で治療

痛みがある部位に皮膚症状がみられたら带状疱疹の可能性がありますので、できるだけ早く皮膚科など医療機関を受診するようにしてください。受診した医療機関で带状疱疹と診断されると抗ウイルス薬で治療されま

す。現在、バラシクロビル、ファムシクロビル、アメナビルの3種類の薬剤の内服による治療が可能です。腎臓の機能などが考慮されて、薬剤の種類、内服する用量が決まられます。高熱がみられる場合など重症な場合は、入院して抗ウイルス薬の点滴による治療が必要な場合があります(図2)。これらの抗ウイルス薬は、ウイルスの増殖を抑えることで効果を発揮するため、できるだけ早く、なるべく発症してから3日以内に皮膚科など医療機関を受診するようにしてください。皮膚症状は、発症してから2週間ほどで治まりますが、神経痛の症状が残ってしまうことがあります。神経痛に対しては、まず、アセトアミノフェンなどの鎮痛薬による治療が行われます。それでも痛みが治まらない場合、トラマドールなど弱

図3：带状疱疹による神経痛の治療

アセトアミノフェン
など
鎮痛薬

トラマドールなど
弱オピオイド薬
トラマドール・
カロナール配合薬を
含む

プレガバリン、
ミロガバリンなど
末梢神経障害による
痛みを抑える薬剤

いオピオイド作用(麻薬に近い作用)のある薬剤や末梢神経が障害されたことで生じる痛みに効果のあるプレガバリンやミロガバリンなどの薬剤が投与されます(図3)。

ワクチン予防が可能に

最近では、带状疱疹の発症を予防するため、水痘・带状疱疹ウイルスに対す

図4：水痘・带状疱疹に対するワクチン



- 乾燥弱毒生水痘ワクチン
- 組み換えサブユニットワクチン

るワクチンの接種が可能になりました。現在、ウイルスの病原性を弱めたウイルスを用いる乾燥弱毒生水痘ワクチンとウイルス表面のタンパク質を用いた組み換えサブユニットワクチンの2種類のワクチンがあります(図4)。50歳以上の方が対象です。水ぼうそうになったことがない方は、打つ必要がないと思われるかもしれませんが、お子さんの時に水ぼうそうにかかった方、あるいは带状疱疹を

発症しても10年以上経った方は、もう一度带状疱疹を発症するリスクがありますのでワクチンを打った方が良いと考えられます。ワクチンを接種しても、残念ながら带状疱疹を発症してしまう方もあります。ただ、発症したとしても神経痛などの合併症がひどくならずに済むということがありますので、ぜひワクチンを打っていただきたいと考えております。

ラジオ番組
みんなの健康ラジオ

ラジオ日本 AM1422kHz FM92.4MHz

毎週木曜日 午前11:05~11:10
再放送は毎週日曜日午前5:40放送



横浜市医師会の14ある各科医会の先生方により、すぐに役立つ健康情報をお届けしています。